

# 地域再生計画 事後評価シート

「ゆとりある自然と共生する暮らし」 計画

平成 29 年 11 月

地域再生計画（地方創生整備交付金）事後評価調書

都道府県名	長野県	事業実施主体	長野県、飯田市	地域再生計画名	「ゆとりある自然と共生する暮らし」計画
計画期間	平成22年度～平成26年度	評価責任者	飯田市総合政策部長		

	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	最終目標値の実現状況に関する評価	
			基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績			
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標 1	国道152号から「しらびそ高原」までの所要時間40分を30分に短縮する	40分	H21	H25	34分	30分	H26	30分	○	市道上村1号線の改良工事が計画通り進捗し、当初の見込み通り国道152号から「しらびそ高原」までのアクセスが向上している。
	指標 2	「しらびそ高原」から「下栗の里」までの所要時間40分を30分に短縮する	40分	H21	H25	32分	30分	H26	30分	○	林道御池山線の改良工事が計画通り進捗し、当初の見込み通り「しらびそ高原」「下栗の里」間のアクセスが向上している。
	指標 3	国道152号から南アルプス登山口までの所要時間90分を60分に短縮する	90分	H21	H25	65分	60分	H26	60分	○	林道赤石線の改良工事が計画通り進捗し、当初の見込み通り国道152号から南アルプス登山口までのアクセスが向上している。
	指標 4	間伐材の木材加工処理施設への運搬時間を40分から30分に短縮する	40分	H21	H25	32分	30分	H26	30分	○	林道千遠線の整備により、木材加工処理施設への運搬時間が当初の見込み通り短縮されている。
	指標 5	森林整備（間伐）面積80haから96haに向上する	80ha	H21	H25	105ha	96ha	H26	98ha	○	林道計画4路線の改良工事により、木材の搬出、森林施業を行う上で車輛通行の円滑化、安全化が進み、当初の見込み以上に森林整備面積が向上している。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1	「下栗の里」観光客数	27,300人	H21	H25	68,100人		H26	67,100人		下栗地域の周遊道路の整備により、しらびそ高原の観光入込客を下栗の里へ導く効果が得られている。
	指標 2	「しらびそ高原」観光客数	39,600人	H21	H25	67,500人		H26	70,300人		地域との協働で取り組む観光施策が観光入込客増加につながっている。
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価					
			計画	中間年度（H25）	最終実績						
	特別措置を適用して行う事業	市道事業	2.7km	2.3km	2.5km	上村1号線及び上村4号線並びに尾林八ノ倉線の整備は計画通りに進み一定の効果が得られた。上村150号線については延長を減としたが、観光入れ込み客の増加に伴い新たに整備を要する箇所が表面化したため、引き続き整備を進めていく。					
		林道事業	5.7km	5.1km	5.9km	降雨・融雪等の落石や土砂崩落により、通行に危険であったが、林道の法面整備により通行の安全確保が図られた。しかしながら整備する箇所が数多くあり、引き続き整備を進めていく必要がある。					
その他の事業	体験と交流事業	・下栗の里におけるイベントを地区まちづくり委員会と協働で実施。			・春の桜まつり、夏まつり、秋の下栗ふれあい祭りなどのイベントに市内複数の高校の生徒や地域外のボランティアが運営に関わっている。 ・下栗の地域づくりを支援する応援団が結成され、遊休農地での農作物栽培、地元イベントの活動支援を行っている。						
	地域資源の活用と森林整備事業	・林道御池山線沿線に日本初の隕石クレーターの文化的遺産としての保存活用が可能となる。 ・「赤石銘茶」「遠山地鶏」「信州サーモン」等による産業振興			・御池山隕石クレーターを文化的遺産として保存活用するための基礎調査を実施した。H22以降、クレーターの広報活動を展開（ガイドブックの作成、美術博物館ドームシアターでの映像発信）。H23/6～8月にかけて御池山隕石クレーター特別展を飯田市美術博物館において開催。 ・御池山隕石クレーターのプラネタリウム番組を制作し、飯田美術博物館において上映している。隕石クレーターの常設展示をしらびそ高原観光施設で開催している。 ・観光宿泊施設の夕食に特産品を積極的に使用している。						
計画外で独自に実施した事業											
④評価方法	関係行政機関と地元住民からなる地域再生協議会を開催し、達成状況の評価、改善すべき事項の検討を行った。										
⑤事後評価の公表方法	飯田市企画課のホームページに掲載										
⑥計画全体の総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本地域再生計画に基づく事業は、市道及び林道の総合的な整備による交流人口の増大を一つの目標に据えているが、地域との協働で取り組む観光振興策の効果もあり、平成21年度には約67,000人であった観光入込客（「ハイランドしらびそ」及び「下栗の里」）が平成26年度には約137,400人と約2倍以上増え、着実に成果を上げている。しかし、観光客増に伴いアクセス道路の整備不足が表面化し、シーズン時には慢性的な渋滞が引き起こされている。また、林道千遠線は、市道尾林八ノ倉線との接続による災害時の迂回路としての実用化が待たれる。</li> <li>・林道御池山線沿線に日本初といわれる隕石クレーターがあり文化的遺産としての活用も予定されている。（市内小学生を対象の宇宙をテーマとした「宇宙留学サマーキャンプ」での活用）また、下栗区有林を育成天然林として森林整備を行うことで南アルプスと中央アルプスの山岳展望の保全が図られた。</li> </ul>										
⑦今後の方針等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠山地区（飯田市上村・南信濃）は合併以後人口減少に拍車がかかり、合併以前に比べ約20%人口が減少した。しかし近年、住民の地域振興意識の高まりにより、観光客が増加している。平成26年6月に南アルプスユネスコエコパークが登録されたことを受け、次期計画では雄大な自然環境を活かした山岳観光にも力を入れ、交流人口のさらなる増加を目指すとともに、地域資源を活用した産業振興に住民と協働で取り組み、定住人口を維持していきたい。また、この地域は土砂災害が多いことから、林道千遠線の整備による災害時の迂回路としての活用を図りたい。</li> <li>・森林を活用し木質バイオマスエネルギーを利用することで、新たな雇用創出と地域経済を活性化し新規就農者や森林労働者の確保を進めたい。また、木質バイオマス資源に関しては現状の木質ペレット燃料の需要創出を継続するとともに、林業関係者と協力し、森林資源の循環利用を理念として未利用材の有効活用の検討をさらに進めていく必要がある。</li> </ul>										

# 道整備交付金による施設整備の整備箇所

(飯田市 竜東地区)

